自由ソフトウェアの責任、僕の逡巡

g新部 裕
特定非営利活動法人フリーソフトウェアイニシアティブ
<gniibe@fsij.org>

概要

「無いなら作る」。GNU Project は 25 年前、勇ましくも開始された。Linux をカーネルとして加え、自由の OS は実現した。GNU/Linux は今やネットワークサービスを実現するシステムから携帯電話まで広く利用されるまでになった。

「あるものは使え」。これが開放型のソフトウェア開発の掟となった。

自由ソフトウェアの歴史を振り返りつつ、自由ソフトウェアの主要な出来事やトピックスを解説し、自由な社会を展望する。

出来事

1983 GNU Project 始まる

1985 Free Software Foundation 設立

1991 Linux の開発始まる

1993 FreeBSD, NetBSD, Debian

1995 RedHat

1997 GNOME デスクトップ環境

1998 Open Source Software 運動

1998 最初の Mozilla リリースされる

1999 GNU Privacy Guard の開発

2000 OpenOffice.org 始まる

2001 Wikipedia 始まる

2003 SCO 問題

2007 GPL 改訂され GPLv3 となる
Linux Foundation 設立

2008 Netbook の OS に GNU/Linux

トピックス

自由ソフトウェアの敵

- プロプライエタリソフトウェア
- ベンダーロックイン
- ソフトウェア特許
- 開発環境の支配
- Tivoisation (Digital Rights Management, Trusted Computing)
- バイナリ Blob

自由ソフトウェアを成立させる要件

- ハードウェア仕様の開示
- オープンスタンダード

自由ソフトウェアライセンス

名前問題

- オープンソース, 自由ソフトウェア
- GNU/Linux
- Firefox の商標

逡巡

ハッカーとして自由ソフトウェア運動を推進し、無いものは作り、適用分野を広げ、より自由な環境を作り出してきた。今、社会的な重要性が増してきた。ソフトウェアの社会的責任を痛感する。

一般人として、友達、家族、親戚に奨めようとする。さまざまな問題が表出する。